

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		カラーズFC柳川				公表日	令和7年 4月 25日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		部屋には物を置かないようにしスペースを広くしている。		
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1		職員配置に余裕がなく病欠などをしやすい環境だった為令和7年4月から改善している。	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	2	4		急な階段・段差があり転倒防止の為児童に声掛け、職員配置等を随時行う必要がある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6				
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	2		落ち着いた環境を提供するような別室が特に用意されてない為相談室等の環境整備が必要。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		常に職員全体で共有・話し合いを行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者意見は随時職員に共有している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		朝礼・面談で職員への聞き取りを行っている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		研修は月1回以上随時行っている。		
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6				
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		児童についてのカンファレンスを随時行い課題を明確化し共有している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6				
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		子ども家庭庁からの情報をもとに作成している。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6				

供 給	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		職員の要望を反映しながら役割分担をし連携を図っている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		次の日の朝礼にて振り返りを行い改善を図っている。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	6			
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		個別支援の担当者が出席し理解に繋げ職員に共有している。	
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		随時知りえた情報を職員間で迅速に共有している。	
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6			
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6			
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	4		自立支援協議会の参加により助言・研修を行っている為より多くの職員参加に繋げる必要がある。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	2	4		地域児童との交流が年に1回等と少ない為機会を増やす必要あり。
	33 (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	3	3		管理者のみが積極的に参加している為随時参加職員を増やして認識・交流に努めたい。
	34 曰頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時には必ず申し送りを行い連携を図り信頼に繋げている。	
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	3		感染症流行の時期から機会を失っていた為今後積極的に企画し実現に繋げる必要がある。
・	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		曰頃の信頼関係により困りごと等ある場合は気軽に電話やLINE等で連絡があり随時相談に乗っている。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	4		感染症流行の時期から機会を失っていた為今後積極的に企画し実現に繋げる必要がある。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		心理的安全性を保ちながら迅速に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		事業所内で担当者がいるため随時発信し喜ばれている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		意識付けの為随時確認し合っている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		聴覚障害の保護者がおられる為第三者の立ち合いや筆談の用意身内での協力者を明確にしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		避難訓練・机上訓練を定期的に行い保護者にも連絡帳システムで伝えている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		避難訓練・机上訓練を定期的に行い保護者にも連絡帳システムで伝えている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		契約時・担当者会議で確認し記録に残し職員にも共有している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			医師の確認までは行っていなかった為今後保護者に確認をとる必要がある。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		契約時に必ず緊急連絡先2か所以上の共有と内容を徹底して伝えている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		毎日朝礼で確認し合い他事業所の事例も共有し意識付けをしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		毎日朝礼で前日の支援で該当する事例がなかったか振り返って確認し合っている。他事業所の事例も共有し意識付けをしている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		保護者には十分に説明している。	